

学習内容報告書 フォーマット

学校名	三原市立木原小学校
授業者	住元 俊亮

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ストップ！海洋ごみ

1-2. 学年

第5・6学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本単元は、ふるさと木原の自然環境が様々な要因で常に変化する可能性を持っていることに気付き、そこから見出した課題の解決を通して資質・能力の育成を目指すものである。

本単元では、木原の海の環境変化について取り扱う。木原沖には大鯨島という島があり、大鯨島周辺の海域を中心にして「豊かな海」についての学習を展開してきた。そして、「海のゆりかご」と呼ばれる海草のアマモの栽培や水質・生物の調査を通して、多種多様な生物が生息可能な環境をもつ海こそが「豊かな海」であると結論付けてきた。しかし、木原周辺の海のいたるところに海洋ごみが散見され、決して「豊かな海」とは言えないのが現状である。また、小学校横を流れる柳川はそのまま海に直結しているが、そこにも生活ごみが見られており、河川の良い環境づくりと「豊かな海」との関連性も考えられる。

環境省では2019年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定し、2030年までに使い捨てプラスチックの排出量を25%抑制するという目標を掲げている。また、2019年6月に行われたG20大阪サミットでは「2050年までに海洋に流出するプラスチックごみをゼロにする」というビジョンが発表された。このように、海洋ごみの問題は世界的課題であり、木原における「持続可能性」を考えることは、世界的な「持続可能性」を探ることに繋がると言える。

本単元は5年生社会科「わたしたちの生活と環境」や6年生理科「生き物のくらしと環境」等の学習とも関連させ、教科横断的に進めていくことができる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことに気づくとともに、課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身につけることができる。【知識及び技能】

◎ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を収集し、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

◎学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違った見方の意見や考えをイメージすることができる。 ・ある事象について、その時の意図や目的に応じて比較・分類することができる。 ・困難なことがあっても工夫、修正等をし、最後まで粘り強くやり切り、自信を高めることができる。 ・多様性や立場の違いを認め、互いのよさを生かして課題を解決することができる。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
	<p>【内容】校外学習を行い、小学校周辺の河川や海の様子を観察する。</p> <p>【反応】柳川・海岸には多くのごみがある。流れ着いた物やその場で捨てられた物もある。木原の海は豊かである一面（藻場、多様な生物）と改善を要す一面（河川や海のごみ）の両面がある。</p>	<p>【評価】自分たちの生活に身近な環境の様子について複数の視点に立って捉え直すことができている。</p> <p>【連携】地域住民に川や海の環境の実際をインタビューする</p> <p>【教材】思考ツール「PMIシート」を用いて地域の環境についての情報を整理・分析する。</p>
	<p>【内容】SDGsについて学習し、海洋ごみに関する日本と世界の現状を知る。</p> <p>【反応】世界的にマイクロプラスチックが問題視されており、プラスチック製品を減らす取組が進められている。紙製品と違って瓶や缶は分解されない。</p>	<p>【指導】SDGsの複数の項目に着目させることで、環境のつながりや関連に気付かせる。</p> <p>【評価】自分たちの生活と、SDGsなどの世界的な問題のつながりに気付いている。</p> <p>【教材】SDGsスタートブックを用いて自分たちの学習と関連している項目を考える。</p>
	<p>【内容】海岸での海洋ごみ調査と河川の環境調査を行い、身近な環境の現状を知る。</p> <p>【反応】一見するときれいに感じていた川や海の環境にも、ごみ問題が潜んでいることが分かった。また、人間の生活とごみ問題に関連性があることが分かった。</p>	<p>【評価】身近な場所（川・海・くじら島）の環境の様子について理解を深めている。</p> <p>【連携】株式会社オガワエコノスとの水質検査、三原市漁業協同組合へのインタビュー</p> <p>【教材】CODパケットテストを用いて水質を検査し、上流と下流で比較する。</p>
	<p>【内容】調査結果から考えた具体策（木原海岸クリーンプロジェクト）を実行に移す。</p> <p>【反応】実際にマイクロプラスチックになってしまいう前にプラスチックごみの回収をすることができてよかった。さらに広く呼びかけを行っていききたい。</p>	<p>【指導】他地域（沖縄県）の取組と比較することを通して、より実効性のある方法を考えさせる。</p> <p>【評価】解決のための具体策を多面的に考察して提案し、実行へ移している。</p> <p>【連携】沖縄県竹富町立古見小学校と連携し、海洋ごみ問題の解決方法について意見交流する。</p>
	<p>【内容】活動のまとめを発信し、これまでの学習と自身の変容をふり返る。</p> <p>【反応】課題の解決に向けて最後までやり抜くことができた。自分で方法を考えながら工夫して取り組むことができた。</p>	<p>【評価】新たな課題と、自らの資質・能力に対する自らの変容に気付いている。</p> <p>【連携】沖縄県竹富町立古見小学校と連携し、課題の解決に向けて取り組んできたことの交流や、新たに発見した課題についての意見交換を行う。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

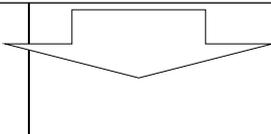
「豊かな海」の環境作りに向けて、海洋ごみの問題・生物の多様性・川と海のつながりなどの複数の情報について比較・分類・関連付けながら整理することを通して、身近な柳川の環境整備の必要性に目を向けることができるようにする。

2-3. 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項（・） 児童への支援の手立て（◆）	☆資質・能力 (評価方法)
1 前時までの学習をふり返る。 ・柳川や木原海岸の調査 ・地域の方へのインタビュー ・三原市漁協へのインタビュー 2 本時の学習課題を確認する。	・活動の写真や学習の成果物を提示することで、これまでの活動を想起させる。 ・地域の方や三原市漁協の方のインタビュー内容から相手意識と課題意識をもたせる。 ・ステップチャートを示し、本時の学習の見通しをもたせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">集めた情報を整理して活動の方針決めにつなげよう。</div>	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> ・どんな活動をすれば「豊かな海」作りにつながるのかな。 </div> </div>	
3 前時までに収集した情報（柳川調査、海岸調査、漁協訪問）について PMI シート（思考ツール）を用いた比較・分類を基に整理する。 【情報・自己との対話】	・ 【情報との対話】 では、図表やグラフから分かることを読み取らせ、それらの関連性を見つけさせる。 ・ 【自己との対話】 では、情報の読み取りを通して自分の意見に根拠をもたせる。 ◆共通している PMI が分かるように示させる。	

<p>4 整理した情報から共通のマイナス点(「豊かな海」作りを妨げている大きな要因)を見つけ、それを基に、自分たちの今後の活動方針を考える。【他者との対話】</p>	<p>・友達の話や意見を最後まで聞き、自分の話と比較させる。相手の話や意見を聞きながら、今後の活動方針を決めさせる。</p> <p>◆問題解決の第一歩は「柳川」「海岸」「鯨島周辺」のどこが適しているか考えさせる。</p>	<p>☆これまで収集した情報を適切に分類して比較している。また、複数の情報を関連付けて共通事項を見付けている。(ワークシート, 発言) (論理的思考力)</p>
--	--	--

<p>《柳川》</p> <p>P…多様な生き物が生息 地域の方による清掃</p> <p>M…生活ごみ 流れが悪くなり異臭</p> <p>I…清掃活動を手伝う</p>	<p>《木原海岸》</p> <p>P…眺めがよい 多様な魚たち</p> <p>M…ポイ捨てごみ 漂着・漂流ごみ</p> <p>I…清掃, 看板設置</p>	<p>《鯨島周辺》</p> <p>P…多様な魚たち アマモ場がある</p> <p>M…漂着・漂流ごみ</p> <p>I…清掃活動を手伝う</p>
--	---	--



自分たちの手で清掃活動を行ってみよう。柳川の清掃をしてよりよい環境づくりをすることが、少しずつ「豊かな海」作りにつながっていくのではないかな。その後は海岸の清掃や看板設置などを行っていき、海洋ごみなどの問題解決につなげていけたらいいね。

<p>5 本時における「資質・能力」の高まりや変化をワークシートにふり返り、次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PMIシートへの取組について ・他者との対話について 	<p>・自分の考えをまとめる過程や友達と意見を出し合う過程における自身の姿について振り返らせることで「資質・能力」の高まりや変化に目を向けさせる。</p>	
--	---	--



・いくつかの情報を比べたりつなげたりして考えることができた。
・友達の意見を認めることを意識しながら取り組むことができた。

3. 今回の活動の自己評価

- ◎SDGsの詳しい内容や海洋プラスチック問題について、図書だけでなくICTを適宜活用しながら学習を進めることができた。
 - ◎他地域（沖縄県竹富町、島根県奥出雲町）との比較を通して、自分たちの地域のよさや課題に目を向けることができた。
 - ◎新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、外部講師を積極的に呼んだり児童が訪問したりすることが難しかったが、リモートミーティングの方法で代替していくことができた。
 - ◎水質について主観をもとに判断するのではなく、専門家（オガワエコノス）の指導の下、CODパケットを用いて客観的に判断することができた。
- △生物指標（よい水質にいる生物か、よくない水質にいる生物か）を用いて、生物と水質との関係を見ていくようにしたい。また、その専門家の指導を仰ぎたい。
- △新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、リモート学習を除いて、学習するフィールドが本校周辺に限られてしまった。社会の状況を見て、学習範囲を広げていきたい。

4. 今後の課題

- ・調査のためのお金がかかる。（船代、講師謝金等）…来年度は調査を春と秋の2回にする。
- ・児童の人数に応じて、少人数でもできる調査にしていく必要がある。
- ・生物指標について外部講師やオガワエコノスに教えていただく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・船に乗って鯨島へ行くので、ライフジャケットの着用や船での注意事項についての指導が必要。
- ・過去のデータを保管しておく。（担任が変わってもわかるように、模造紙に書いて掲示しておくことや表計算ソフトでデータ化しておくことが必要）
- ・鯨島の上陸許可を取る。（三原市役所管財課：4月）

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。